

愛媛県IPM実践指標モデル(キウイフルーツ)

	管理項目		管理ポイント	点数 (注1)	チェック欄(注2)		
	対象	技術			昨年度 の実施 状況	今年度 の実施 目標	今年度 の実施 状況
病害虫・雑草の発生しにくい環境・樹体の整備	共通	枝梢管理	枝梢管理を行い、通風採光を良くする。	1			
	共通	適正施肥	県施肥基準に基づき適切な肥培管理を行い、健全な樹勢を維持する。特に根腐病発生園では液肥や堆肥を施用することより樹勢を強化する。	1			
	共通	防風対策	防風対策を適切に行う。	1			
	病害	病害虫の伝染源の除去	かいよう病の被害枝葉や軟腐病の発生源となる樹上の枯損部(果こう枝、枯れ枝等)や剪定枝を園外へ除去処分する。	1			
	病害	健全な苗木の使用	新植及び改植時には無病苗木を植え付ける。	(1)			
	根腐病	排水対策	排水の悪い園地は排水対策を行う。	1			
		適度な灌水	乾燥しやすいほ場では土壌の過乾燥を防ぐために、適量の灌水を行う。	1			
	灰色かび病	乾いた果実の収穫	果面が濡れた状態では収穫しない。	1			
貯蔵庫点検		貯蔵庫内の点検に努め、発病果は早期に除去する。	1				
判断 防除 要否 及び タイ ミング の	共通	ほ場周辺環境の把握	自園周辺の植生状況から注意すべき病害虫を把握する。(注3)	1			
		病害虫発生予察情報の確認	病害虫防除所が発表する発生予察情報や農林水産研究所の発表する農業技術情報等入手し、病害虫の発生状況や天候に応じた技術情報等を確認する。	1			
		病害虫の発生状況の把握	定期的に園内を見回り、病害虫の発生状況を観察及び確認する。	1			
物理的 防除	花腐細菌病	環状剥皮処理	花腐細菌病を防除する目的で主幹への環状剥皮処理を行う。(注4)	1			
	コウモリガ	幼虫の刺殺	定期的に主幹部を観察し、虫糞が出ている場合は刺殺する。	1			
	カイガラムシ類	物理的な除去	定期的に観察し、カイガラムシ類が多発している場合は、タワシなどでこすり落とす。	1			
	雑草	雑草の発生抑止と刈り取り	ナギナタガヤ等の草生栽培による雑草発生の抑止や、草刈機による除草を実施する。	1			

化学的防除	カイガラムシ類	マシン油乳剤の使用	冬期にマシン乳剤を使用する。	1			
	農薬の使用全般	適正な散布方法、量の選択	十分な薬効が得られる範囲で最少の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する。	1			
		農薬飛散防止対策	農薬散布に当たっては、無風～弱風時の選択、ドリフトレスノズル等の飛散が少ない散布器具の使用等の適切な飛散防止策を講じた上で実施する。	1			
		薬剤抵抗性発達遅延策	農薬を使用する場合には、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で強い薬剤抵抗性の発達が確認されている農薬は使用しない。	1			
その他	土壌浸食対策	土壌の流亡防止対策	のり面の保守、草生栽培などによって土壌流亡の防止に努める。	1			
	作業日誌	作業日誌の記録	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のIPMに係る栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
	研修会等への参加	研修会等への参加	研修会、栽培講習会等に参加し、最新の病害虫防除技術等を学ぶ。	1			
合計点数(注5)							
対象IPM計(注6)							
評価結果							

注1：毎年度実施する必要がない項目には()を付した。本項目については、実施した場合に加点し、その他の年度は「－」と記す。

注2：チェック欄では、未実施の場合は0、農薬未使用等当該管理ポイントがチェックの対象外であった場合は「－」と記す。

注3：周辺の雑木林、管理放棄樹(コウモリガ)などが相当する。

注4：5月上旬(満開20～25日前)に、主幹部に環状剥皮処理(3～5mm幅)することで発病を抑制することができる。しかし、環状剥皮は、樹勢低下を招く恐れがあるため、樹齢5～6年以下や樹勢の弱い樹や発病の少ない園では処理しない。

注5：毎年度実施する管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、実施した管理ポイントの合計点数は()内に記入する。例 20(3)

注6：毎年度実施する管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を記入し、毎年度実施しない管理ポイントの内、当該年度の病害虫の発生状況等から対象となる管理ポイントの合計点数を()内に記入する。例えば、農薬を使用しない場合の「農薬の使用全般」の管理ポイントの点数は対象にならない。例 20(3)